

第4回 常滑市立図書館基本構想策定委員会 議事要旨

日 時：令和7年11月11日（火）
14 時 30 分～16 時 50 分
場 所：常滑市役所1階 会議室G

1 開 会

（事務局）

- ・第3回策定委員会において、委員の皆さんより、本委員会でどこまでの議論をすれば良いのか、また今後のスケジュールはどのように考えているのか、ご質問をいただいた。
- ・また、文化会館・中央公民館との複合化についての議論となった際、委員の皆さんより、複合化をするのかどうかは別の場で検討されるべきとのご意見をいただいたこともあり、議事に入る前に、ご説明させていただく。
- ・第4回でも、最後に、委員長より「まずは図書館のことをご議論いただきたい。」という発言があったとおり、この委員会では、図書館の単独整備を前提に、規模や立地の条件、必要な機能・サービス内容など「常滑市にとってふさわしい図書館のあるべき姿」までを検討いただきたいと考えている。
- ・具体的な立地場所については、図書館市民ワークショップの意見や市民アンケートの結果を参考にしつつ、今後の財政状況等や検討いただいた基本構想の内容を踏まえ、別途、常滑市が方針を示すこととする。
- ・スケジュールについては、当日配布の 参考資料1 のとおり、本日第4回で、前回からの継続審議事項となっている「常滑市における課題の整理」を、第5回では、基本コンセプトやサービス内容、既存3施設の方針、立地の条件などについて、事務局から（案）を提示させていただき、第5回・第6回で議論いただく。
- ・第7回では、第6回までの議論の内容で想定される規模や機能、経費などを示す予定で、第8回は最終調整となる。

（豊田雄二郎 委員）

- ・確認だが、立地の条件等は常滑市が決めるということか。
- ・前回の委員会で、委員長の方から、市長から、できれば策定委員会の中で、場所まで決めてほしいという要望があると聞いたが。

（事務局）

- ・前回の委員会での皆さんの意見を踏まえて、立地について具体的に

ここというのは難しいと考え、必要な条件を整理していただいたうえで市が決定することとした。

(豊田雄二郎 委員)

- ・たしかに委員会の中で、最終的にこの場所に作る、どの規模で作るといったことまで検討し決定するのは非常に難しいと感じた。
- ・しかし、当初、策定委員会の委員を依頼されたときには、そこまで決めてほしいという話であったので、それが一気に変わってしまう、特に前回の発言から1か月のうちに、こちらのあずかり知らぬところで勝手に決められてしまうのは、いかがなものかと思う。

(山田朝夫 委員長)

- ・大変申し訳ないが、市民ワークショップの意見を踏まえると、委員会でそこまで決定していただくのは、現時点では難しいと考えた。
- ・前回の目標より、後退した印象を受けるかもしれないが、事務局が説明した形でお願いできないか。

(豊田雄二郎 委員)

- ・仮に難しいという委員会の議論を踏まえて考えたことであっても、委員会に何も諮らずに、市で決めてしまうというのはおかしいのではないか。
- ・前回、中井孝幸委員が言っていたように、立地場所の優先順位をつけることもできるはずなので、委員会を今のまま進めてみて、最終的にここまで決めるのが難しいという意見があって、初めて、そういう結論になるべきではないか。

(事務局)

- ・複数案を提示すると考えた場合でも、どういった形が常滑市の図書館のあるべき姿なのかがまずはスタートになると思う。常滑市にとって実現可能かというところまでご検討いただけるのであれば、そのような形でお願いしたい。

(豊田雄二郎 委員)

- ・最終決定はあくまで市当局や議会であり、策定委員会が決定権を持っているわけではないが、委員で話し合った結果、やはりここしかないということもあり得るのに、それをはじめから、委員会の役割はここまでと閉じてしまうのは、いかがなものかと思う。

(山田朝夫 委員長)

- ・前回の会議では、委員会で決定するところまでは難しいのではないかという雰囲気があったため、本日の提案となったが、皆さんで話し合った結果、ここが良いと決まれば、それも良いと思う。

(豊田雄二郎 委員)

- ・確かにそのような雰囲気ではあった。しかし委員会に諮ることがないのに、決定事項だと言われてしまうようであれば、委員会の意味がない。

- ・例えば、委員の中での意見が、これでいこうということであればそれを毎回諮っていくべき。決定事項とするのはやめていただきたい。
(事務局)

- ・決定事項であるかのような説明になってしまい申し訳ない。
- ・第7回で必要な規模・経費というものが出てくる予定となっているので、改めて皆さんにお諮りさせていただきたいと思う。

2 議 事

(1) 第3章 常滑市における課題の整理について

- ・事務局より 資料1 に基づき、常滑市における課題の整理について、第4節から第7節まで説明

第4節 家庭・地域との連携・協力

(中井孝幸 委員)

- ・「子供」という表記について、「こども」や「子ども」という表記もできる。行政文書だと「子供」という漢字表記になるのだと思うが、基本構想などでは、もう少し柔らかい表記でも良いのではないかと思う。
- ・また第3回の委員会でも申し上げたが、0歳から6歳の読書については、幼児期から小学校・中学校期を通して、公立図書館を利用するまで繋げていくことについて、市として、どのような姿勢で、いつ何に力を入れていくかということだと思っている。

1 家庭における読書活動の推進

(久田博司 委員)

- ・こども図書室ができて、0歳から6歳の実利用者が増えたが、その後は減少に転じているという説明があったが、原因はわかるか。

(事務局)

- ・こども図書室ができた当時は、新しい施設という目新しさもあり、多くの方が来られたが、その後あまり良いなという本がないことなどが原因で、再びは訪れなくなり、現在の数字に落ち着いているのではないかと考えている。

(平野小月 委員)

- ・6歳以下の実利用者だが、一人で、こども図書室に来ることはできないので、子育て世代の利用者数が伸びていないということは、やはり子供と一緒に来た親が借りたいと思う本がなかったのだと思う。
- ・中井孝幸委員が、幼児期からの読書活動をつなげていくことが重要とお話されていたと思うが、子育てをしている親世代にとっても魅力的な図書館でないと、子供を連れて一緒に行こうと思わないのではないか。
- ・些細なことかもしれないが、子供を連れて行ったときに、あまり清潔でなかったり、おむつ替えがなかったりということで、行かなくなることもあるので、細かい所まで配慮のある図書館であることも、20代・30代が利用することに繋がると思うので、整備にあたっては検討いただくと良いと思う。

(事務局)

- ・親世代に魅力がないことが、リピーターが増えず、令和6年度にかけて減少している原因だと思うので、課題として記載させていただく。

2 地域との協力による読書活動の推進

- ・意見なし

第5節 学校図書館との連携

1 学校図書館の魅力の向上

(井村美里 委員)

- ・公立図書館と学校図書館との連携ということで、第2回の委員会から「小さな時から本に親しむ流れを作っていく」ということが重要なキーワードになっていると思う。
- ・現状、どのようなことが出来ていて、どのようなことが出来ていないのかという点が書き込まれると、互いに連携・協力していくことが重要だということが分かりやすくなると思う。

(事務局)

- ・また整理させていただくが、学校側からは、団体貸出にあたって、図書館に本を借りに行くのが大変だといった意見や、貸出の手続きがもっと簡単にできると良いという意見がある。一方で、図書館側から

すると、こういった協力ができるといった提示はしているが実際に申し込みがないといった声がこれまでの議論の中であったと思う。

2 学校図書館の活用

(豊田雄二郎 委員)

- ・学校司書の配置検討することは良いことだと思うが、現在配置できていない理由があると思う。財政上の問題か人的資源の問題かわからないが、理由があれば教えていただきたい。

(事務局)

- ・財政的な事情と人材の確保といった人的な事情の両方があると考えられる。その点も記載させていただく。

(久田博司 委員)

- ・67 頁に探求学習が大切な学習であるという記述があったが、自分も図書館市民ワークショップの最終レポートで、強調して書かせていただいた。
- ・記載内容については、その通りだと思うが、一方で、学校の先生からの声で「タブレット端末の導入で学校図書館を利用する機会が減ってしまった」というものが多くあるとのことだった。
- ・調べ物というのはまずはインターネットでというのが今では当たり前ではあるが、一方でその内容を図書で深めていく、そういった連携も必要があると考えていて、単純にタブレットの導入で本を読まなくなったといった記述だけではなく、書籍との共存をいかに高めていくかも課題になると思う。

(事務局)

- ・ご指摘のとおり、学校司書の役割の中には、インターネットで調べた情報が果たして正しいのか、出典は、など、情報リテラシーと言われるようなインターネットを利用した調べ方について指導していくことも重要だと言われているので、整理し、記載させていただく。

(平野小月 委員)

- ・学校司書を望む声があったと思うが、たしか資格は不要であったと記憶している。
- ・地域の方や一般の方の中でも、図書館と学校図書館とを繋ぐことに長けている方もみえると思うので、そういった観点からも、人を探して学校司書を早く配置できると、より学校図書館の利用率があがるのではないか。

(中井孝幸 委員)

- ・ 先行事例をいくつか紹介させていただく。
- ・ 長野県茅野市の学校図書館の整備に関わらせていただいたが、そこは小中一貫校で、学校に3人の学校司書が常駐していた。別の地域では、もちろん常駐ではなく一人の学校司書が各校を回っていることもあり、学校司書の配置については市の方針もあると思う。しかし、やはり良い本が選書されていることが一番ではないかなと思う。
- ・ 過去に安城市のアンフォーレが開館した際に、市内の小中学校を対象にアンケート調査をさせてもらったが、例えば、アクセスの関係もあり、公共図書館から遠い中学校ほど、学校図書館の利用が高いなど相関関係があった。蔵書数は生徒数で配置されているが、遠く離れた学校図書館に手を入れてあげるのも良い。
- ・ 愛知県瀬戸市の事例。中学校区が8校区あり、地域開放で土曜日・日曜日に、開館時間は10時から16時までと短い、学校図書館を地域図書館として開放している。現時点で7館が整備されており、スタッフは市から派遣して実施している。
- ・ 大阪府寝屋川市の事例。小学生・中学生が持っているタブレット端末から公立図書館に本のリクエストができる。配送日は決まっているが、シルバー人材センターに配送を委託しており、何を借りたか分からない状態で、直接、学校に本を届けてくれる「おとどけBooks」という事業を行っている。
- ・ 静岡県磐田市には、合併前の町立図書館を改修した「ひと・ほんの庭にこっと」という施設があり、子育て支援施設ではあるが、図書館部分が多い。図書館法に基づく図書館ではないので、本の複写はできないのだが、司書以外のみんなが貸出業務を行っている。図書館でないからこそできる、良いサービスだと思う。
- ・ 三重県亀山市では、公立図書館の中に、不登校の子どもが学習したり、興味のあることに取り組んだりできる場所があり、教員経験者が学習や相談対応をしている。

(中井孝幸 委員)

- ・ 個人的には、身近な図書館を利用できることが望ましいと考えており、日常生活圏、とくに中学校区に1拠点あるのが良い。
- ・ 常滑市で中学校区にない所もあると思うので、学校図書館を地域に開放するというアイデアも面白いのではないかな。
- ・ また中学生の学校図書館の利用を見ていると、7対3くらいの割合で、グループでの利用が多く、本を読むわけではなく、グループで喋って帰っていく。教室以外にも居場所があることは、とても大切なことだと考える。

(赤尾恵子 委員)

- ・どの節に記載するのが適当なのかは分からないが、勉強スペースというのは、必要だと考えている。
- ・自分もそうであったが、受験や定期テストのときに図書館に勉強をしに行き、休憩時間に本を手に取り、それがきっかけで本が好きになることもあると思う。
- ・自分の子供が大学生だが、考え事をするときはいつも図書館に行く。本を借りに行くわけではないのだが、図書館が受け止めてくれるというイメージがあって、居心地が良い場所なのだと思う。

(中井孝幸 委員)

- ・学習室の話で言うと、学生は机がある場所ではどこでも勉強してしまう。学習室があれば、そこで勉強するのだが、学習室がないと児童エリアなどでも机が置いてあれば、そこを使ってしまう。
- ・机がある閲覧席の数をどうするのも課題の一つで、学生に多いトラブルでは、荷物を置いたまま席にいないこと。そのせいで図書館の中で本を読みたい人が困っている。
- ・学習室は設けるか設けないかは、市の判断だと思うが、椅子席やソファ一席、ベンチ席など、今後の基本計画以降での話にはなるが、それぞれが気持ち良く利用できるような配置により、居場所を作ってあげることが重要である。

(山際史子 委員)

- ・高校生や大学生に対するサービスについても記載があると良いが、何か良いアドバイスはないか。

(中井孝幸 委員)

- ・どこの自治体でも同じ悩みを持っており、非常に難しい課題である。
- ・個人で学習する人もいるが、グループで議論したい人たちもいる。大学図書館のラーニング・コモンズのように、会話が許容されているスペースがあって、ホワイトボードを使ってわいわい話し合ったり発表の練習をするという場所があっても良いのではないか。
- ・図書館の中がしっかりゾーニングされており、静かに読みたい人と、話をしながら読みたい人のエリアがあって、お母さんが子供に「図書館では静かにしようね」と言わなくてよいのが理想である。
- ・同志社大学のラーニング・コモンズには畳コーナーがあり、大学生が靴を脱いで上がって、掘りごたつの所で勉強したり、グループで作業したりしていたのが印象的であった。

第6節 特定の利用者へのサービス

(山際史子 委員)

- ・日本図書館協会や文部科学省の資料の中では「特定のニーズを持つ利用者」や「特定利用者サービス」という表現をしている。
- ・障がい者や外国人についての記載だけだが、高齢者や乳幼児、入院患者や施設に入っている方も対象になるので、それらについても記載いただくと良いと思う。

(事務局)

- ・勉強不足で申し訳ない。特定利用者の記載内容について改めたいと思うので、ご教授いただきたい。

(赤尾恵子 委員)

- ・不登校の児童・生徒についても最近は増えており、図書館は居場所として最適だと思うので、こちらに記載してほしい。

(豊田雄二郎 委員)

- ・前回も図書館を取り巻く状況の中で発言したが、障がい者や認知症高齢者が増えていくと断定するのは良くない。増えていくことが想定されるなど文言に気を付けた方がよい。

(事務局)

- ・前回の指摘が活かされておらず、申し訳ない。増えていく傾向にあるなどの文言に変更する。

1 障がい者向けサービス

- ・意見なし

2 外国人向けサービス

(豊田雄二郎 委員)

- ・情報提供を図るというのは、いわゆるポルトガル語や中国語など多くの言語に対応していくということか、それとも、やさしい日本語というものが最近は主流だが、そちらを指しているのか。

(事務局)

- ・後者のやさしい日本語による案内というものやピクトグラムによるものを目指している。

(山際史子 委員)

- ・出版数が少なく、情報があまり入ってこないというのは、少し曖昧ではないか。外国語の図書は単価が高いことや、収集や選書の基準が難しいこと、言語能力や選書スキルの問題など具体的な問題を書いていただくと良い。

第7節 図書館サービスの提供体制

1 既存図書館の位置付け

(豊田雄二郎 委員)

- ・青海本館については、法律上は公民館図書室なので、表現を統一して書くべき。既存図書館があるなら、策定委員会で何を議論しているのか不明瞭になってしまう。

(事務局)

- ・既存の3施設について、表現を統一し改める。

2 分散移転による整備内容

(井村美里 委員)

- ・現在、公民館の中に図書室があり、自分も現地を見に行った際に、ピアノの弾き語りを聞きながら読み聞かせが聞けると書いてあって、普通の図書館ではあまりない取組で、すごく良いなと思った。
- ・第3回の委員会の中で、公民館のホールが図書コーナーとなり、交流の場所がなくなっているという話題があったと思う。せっかく公民館の中に図書室があるので、その他のメリットやデメリットを教えてくださいと、今後どうするかの参考になると思う。

(事務局)

- ・また整理させていただくが、メリットとしては公民館と一体になった運用という点である。公民館と図書館が同じ場所になったことで、部屋を融通し合える。
- ・ホールに図書コーナーがあることで、ピアノの弾き語りをしながら絵本の読み聞かせをしているのを公民館利用者の方が見るなど、図書館の活動を知っていただけることも増えたこともあげられる。
- ・一方で、ホールが占領されてしまい、そこで過ごすことができなくなったり、公民館利用者側が公民館まつりなどで利用できなくなったり、音の出るような活動に気を遣っているといった声もある。

(山田朝夫 委員長)

- ・昨年、図書館の利用者にアンケートをとったところ、青海本館と南陵分館は蔵書が増えたこともあり、その点はとても好評だった。
- ・今後、新しい図書館を整備するとなると、こども図書室を含めて、今ある機能をどうするか、難しい選択になると思う。

(山際史子 委員)

- ・図書館側からすると、市が公民館に出す資料がもれなくもらえるので、とてもありがたい。
- ・また、青海公民館と南陵公民館にはヤギが飼われていて、お話し会とコラボすることができたり、年に1回行っている、図書館に泊まって夜中まで本を読むという「ホテル・ザ・ライブラリー」という企画も、公民館と一緒にだからできることだと思う。

3 公民館図書室の今後のあり方

- ・意見なし

4 図書館へのアクセス

(豊田雄二郎 委員)

- ・これから高齢化が進んでいくことが予想される中で、図書館に来ることが出来ない人にどうやって来てもらうかという課題がある。
- ・昔は、地方ではマイカーで移動するというのが普通であったが、最近では、公共交通機関だけを使って、遊べる楽しめるウォーカブルな街というのが、都市部だけでなく地方でもトレンドだと思う。歩いて行ける所に、公共交通機関にアクセスできる拠点があることは、街作りにとっても、不可欠な視点である。
- ・富山市では、都市の再開発にあわせてLRTを整備した。また国としては、2030年度には、1万台の自動運転のバス・タクシーを走らせることを目標とした。これは一つの自治体に10台弱という計算になると思うが、自動運転の車が普通に走っている姿が当たり前になってくると思うので、常滑市でも、図書館に行くのに、自動運転のバスやタクシーで行くというのは、一つ不可欠な視点ではないか。
- ・一方で対照的だが、図書館側から来るという視点も考えられる。愛知県がすでに、西尾市や新城市でドローンや自動配送ロボットが、店舗から自宅に運ぶという実証実験をしている。ノスタルジックに言う「あおぞら号」の復活というのもあっても良いと思う。

(井村美里 委員)

- ・第5回の図書館市民ワークショップでアクセスについてメンバーで手を挙げて意見を確認した。常滑市の場合は浸水してしまう場所が多く、便利な場所と高台とどちらを選ぶのかというものだった。
- ・仮に低い場所に整備したとしても、資料が守られるように、2階以上の高い場所に図書館を整備するなど、そういった安全対策によって、利便性を確保することも課題としてあると思う。

(中井孝幸 委員)

- ・災害への備えや対応、浸水に対して資料をきちんと守るということは記載すべきことだと思う。

3 その他

(豊田雄二郎 委員)

- ・繰り返しになってしまいが、先ほど図書館単独で考えることを前提に策定委員会で議論を進めるということだったが、公民館や文化会館など文化施設との複合化については、全く排除して議論すべきではないと考えている。
- ・前回、土方副委員長の発言にもあったとおり、複合施設のあり方をこの場で議論するのは違うとは思いますが、複合施設も含めた可能性を探ることはおかしいことではないと思う。

(山田朝夫 委員長)

- ・第5回の図書館市民ワークショップでの市長の発言からハレーションがあった。常滑市にとってふさわしい図書館はどうあるべきかという議論の先に複合化の議論があっても良いと思っている。

(土方宗広 副委員長)

- ・前回意見させていただいたのは、公共施設アクションプランにおいて複合化しないということが定まっていて、その前提で図書館市民ワークショップを開催している。単独整備という条件を覆して、この委員会で複合化についてまで決定するのはおかしいということ。
- ・複合化の議論を完全に否定しているわけではなく、複合化の是非については、この策定委員会の先に、別の委員を交えとか、別の委員会を設けて、その場で諮るべきことだと思っている。

(豊田雄二郎 委員)

- ・複合化についての共通の認識というか、最低限の情報は与えて議論すべきなのではないか。

(山田朝夫 委員長)

- ・複合化の経緯については、私から説明させていただく。

- ・図書館については複合化を目指して検討していたが、豊田委員の記事がきっかけだったと思うが、図書館が早く欲しいという機運が高まってきたこともあり、利用者等に対するアンケート調査を行った。
- ・結果、「早く欲しい」という声が多くあり、複合化を考えていると非常に時間がかかることから、みなさんのご要望にお応えできないということで、図書館を切り離して、早く検討しようということになった。

(中井孝幸 委員)

- ・自分の中での「複合化」は色々な施設が一つの建物の中に入っているというイメージである。建築用語でいうところの「多機能融合型」は、今までの本の貸し借りという図書館のサービスに、色んなものがプラスされている図書館をイメージしてもらうとわかりやすい。
- ・いくつか事例を紹介すると、愛知県豊橋市のまちなか図書館や石川県立図書館では、メーカースペースというものが作られていて、いわゆる3Dプリンターなどが置いてある。
- ・北欧の図書館には、どこもミシンが置いてあり、みんなが使っている。公民館がないためだが、ギターを弾く音楽スタジオやゲーム機なども置いてある。
- ・議論する中で、そういった機能が必要ということであれば、この委員会の中で、含める含めないといった議論をするのは良いと思う。
- ・いずれにせよ、図書館に色んな機能がプラスして欲しいのであれば、そういった議論は、この場でされた方が良いと思う。

(山田朝夫 委員長)

- ・中井委員からご意見のあった「多機能融合型」という意味では、やはり議論した方が良いと思う。
- ・常滑市で使っている「複合化」を説明させていただくと、10年近く前に遡るが、文化会館も図書館も老朽化しており、それらを市庁舎の移転と合わせて、合築できないかと検討したことである。
- ・公共施設等適正管理推進事業債という交付税措置のある有利な起債を活用しようとしたもので、複数の施設を集約化して、総面積を減らすことが条件である。当時の常滑市は財政状況では、踏み切ることにも議論があるところではあったが市として提案した。
- ・当時、図書館は、旧本館の2倍の面積が必要だと考えていたので、その分の面積を、市庁舎か文化会館で減らさなくてはならない。常滑市は、文化会館に1,000席を超えるホールを持っているが、満席になることはほぼなかったもので、少なくできないかと考えた。
- ・しかし、文化会館の利用者を中心に、文化会館を存続して欲しいという署名が4,000通以上集まった。利用者の意向もあり、一方で、市庁

舎については、浸水区域から移転することで活用できる緊急防災・減災事業債という、別の有利な起債の期限が迫っていたため、市庁舎を単独整備することし、図書館、文化会館、公民館については、時間をかけて複合化を検討していこうということとなった。

- ・昨年度までは複合化の方針だったが、図書館は早くほしいという要望が多く寄せられた一方で、文化会館はそのまま維持してほしいという意見が強いので、図書館だけを切り離して検討することとして今日に至っている。

(豊田雄二郎 委員)

- ・「早くほしい」という声があるのは理解している。事務局は早く整備しなければと進めているが、図書館市民ワークショップの意見では、ちゃんとした図書館を作ってほしいという声があった。
- ・テナントとして整備している図書館もたしかにある。例えばイオンに入居している富津市は10年契約であり、この先5年後どうなるかはっきり分からない。契約上の問題もあるし、自前の図書館がやっぱりほしいねという声も地元で高まっていると聞く。50年間持つ図書館を作るという気持ちで整備するのが良いのではないか。

(久田博司 委員)

- ・単独で整備するのか、複合化するのかの決定は、市としていつ頃出す予定でいるのか。立地の条件や図書館のスペースの問題も出てくるし、青海や南陵をどうするのかという議論やコストの問題もある。
- ・図書館単独で、どういう機能が必要かとか、コンセプトやどういう図書館であるべきかの議論はできると思うが、それ以外の部分については、今のまま詰めていっても、最後はご破算にならないか懸念がある。
- ・市としての今後どのようなスケジュールで考えているのか。

(事務局)

- ・複合化の相手として、まずは文化会館と中央公民館が考えられる。
- ・先ほど委員長からも説明させていただいたが、昨年度、アクションプランが改訂されたのも、文化会館・中央公民館の方向性が早急には決められない事情があって、図書館を単独で検討することとしたもの。スケジュールをお示しするのは難しい。またどの施設を複合化していくかも、簡単にはまとまらず、お示しできない。
- ・まずは、図書館の目指すべき姿を描いて、その後に、文化会館などの新たな進捗が出てきた時点で、見直すか、複合化させるかといった対応ができるような基本構想にしたいと考えている。

(久田博司 委員)

- ・次回以降の「立地の条件」については、どんな提案が出てきて、委員会ではどのような議論をすれば良いのか。

(事務局)

- ・図書館市民ワークショップでお示した土地は候補地ではなく、市が持っている土地の紹介であったが、この委員会の中でも、具体的にその中からどこにするかを決定するのは難しいと思っている。
- ・先ほど井村委員からもご発言があったように、水害が想定される土地であっても何らかの対策をすることで、利便性を優先するという考えられるし、そうではなくて少しでも高い土地に整備するという考えられるので、どちらを優先するか、また青海本館と南陵分館、こども図書室を踏まえて、市のどのあたりに、整備すべきなのかといったこともご議論いただきたい。

(中井孝幸 委員)

- ・基本構想の中で、候補地に○×△の評価をつけることも当然ある。
- ・図書館に必要な機能はこういうものであって、それを踏まえると面積は例えば 3,500 m²ほど必要、また駐車場についてもこれ位の台数は必要となるといった、図書館に必要な条件をこの委員会で決めて、それをもとに、この土地だと、平面駐車場なのか立体駐車場なのか、浸水対策が必要なのか、その他どんなメリットやデメリットがあるのかを整理する所までを議論するのが良いのではないかと思う。
- ・平屋で 3,500 m²確保できれば理想的だが、財政や整備できる場所のこともある。
- ・今、私たちが策定委員会の中で議論しなくてはいけないのは、図書館に必要な機能をきちんと整理して、それが単独という形でも複合化という形でもどちらでもよいが、きちんと整理されることだと思う。

(豊田雄二郎 委員)

- ・市として現実的に考えられ得る場所を複数示していただき、実際に現地を見に行ってから、委員会で議論するのが理想的だと思う。

(中井孝幸 委員)

- ・立地についての議論もあると思うが、この後、基本計画を策定していく中でより具体化させていくもの。いくつかの候補地があれば、簡単な図を書いて、策定委員会の中で判断できることも出てくるとは思う。

(中井孝幸 委員)

- ・先ほど分館の話が出たので、一つ事例を紹介する。島根県隠岐郡海士

町の事例で、「島まるごと図書館構想」というもの。まず学校図書館を地域の図書館として、分散型をとっており、今は、島内に28か所の分室があり、至るところに本が置いてある。

- ・きちんと管理がされており、定期的に入れ替えもされている。
- ・最後に中央館というものを整備したが、面積は狭く、そこには児童書は置かれなかった。その理由は学校にきちんと置かれているから。
- ・今回の常滑市では、中央館をきちんと作るという方針になればそれでも良く、その時は、幼児から高齢者まで、みんなが使えるコアとなる図書館を作ること考えられる。
- ・中央館の機能をまず考えてから、分散されている施設で機能を分担して、何を受け持つのかということを考えていくことが重要である。

(久田博司 委員)

- ・例えば、工場を整備するとなった時も基本構想と基本計画の2つの軸に分かれると思うが、構想段階においては、基本的には候補場所が3つくらい選定され、その中でメリット・デメリットが整理されていたり、将来的な拡張性を総合的に判断する。そのあと、企画段階に入った時に、もう少し絞って、建設計画に入っていくと思う。
- ・高台がよいとか、商業施設の近くがよいとか、その程度のことは図書館市民ワークショップの中でも出ていたと思うので、次回以降、立地の条件を考えると、もう少し具体的に、こんな場所を想定しているとか、こういったところなら市としても可能性があるとか、アクセスは良いが図書館単独でしか整備できないなど、もう一歩踏み込んで議論できるような情報を提示していただけると、議論が進むのではないかと思う。

(山田朝夫 委員長)

- ・図書館の検討を始めたときは、個人的には、貸出しに特化するなら、本館は不要なのではと思っていた。あるいは、図書館を充実させすぎると、本屋が無くなってしまわないかということも思っていた。
- ・しかし、これまでの議論を経て、やはり中心となる場所が必要という気がしている。
- ・委員のみなさんからの多様なご要望をいただいた。どこまでご要望に沿えるか分からないが、次回までに、何らかの形で、たたき台が出せるよう努力していきたいと思う。

(井村美里 委員)

- ・自分は、はじめはテナント型であったり、あるいは小さな図書館が各所にある分散型で良いのではと思っていた。
- ・施設管理の手間を司書から手放してあげたいと考えているのが一番

の理由で、図書サービスがしっかりしていれば、建物はどんなものでも良いと考えていた。

- ・図書館市民ワークショップの中で、しっかりとした図書館がほしいという意見もあり、考えが揺れている。次回、たたき台が出てくるときに、一つだけの方向性だけを示されて、それに対して賛成・反対という感じで議論が進んでいってしまうと、先が見えてこない。

(豊田雄二郎 委員)

- ・自分のイメージも同じ。例えば、テナント方式もあると思うし、旧市民病院跡地であったり、旧常滑高校跡地であったり、それぞれメリット・デメリットがあると思う。場所を決めるのはたしかに難しいかもしれないが、事務局から現実的な場所の候補を出していただき、ある程度の精査をする必要はあると思う。

(事務局)

- ・市が持っている土地には、大きい面積のものから小さいものまで、複数ある。これまでの議論にあったように、どこに設置するかというのでも議論の必要がある。
- ・一方で、そもそもどれくらいの規模で整備するかというのも重要な要素である。その後で、立地場所によっては、それを小さくしたり、機能を減らしたりすることなどを考えていくことになる。
- ・次回は、どのような図書館をといるところをまずは整理したうえで、その後の立地場所などにつなげていければと思う。

4 閉 会

- ・次回の委員会は、12月9日（火）午後2時30分から開催
- ・会場は、常滑市役所1階 会議室Fの予定